

**令和3年度  
西尾市学生議会**

**令和3年12月24日 午後2時から午後4時10分まで**

**西尾市役所 6階議場**

## 議長／福地中学校 小松勇夏

皆さん、こんにちは。本日、前半の議長職を務めさせていただく福地中学校の小松勇夏です。よろしくお願いします。

ただいまから、西尾市学生議会を開会します。

初めに、中村市長から挨拶があります。

## 市長／中村 健

皆さん、こんにちは。西尾市長の中村 健です。

本日は学生議会にご参加いただきまして、本当にありがとうございます。

これまでは、何年間か、僕の方が毎年何校かの学校に出向いて学生議会を開催してきましたが、こうした市役所の議場で開催するのは初めてとなります。

皆さんは、西尾で生まれ、あるいは西尾で育って、この西尾市がもっとうなればいいのか、何でこうなんだろうと思うことがきっとあると思います。今はまだ中学生ですから選挙権があるわけではないですが、20年後、30年後の西尾市は、皆さんの年代が背負って行ってほしいと思っています。

今日は、そうした日頃の疑問とか、自分たちが考えていることとか、勉強してきたことについて、少し緊張してしまうかもしれませんが、正々堂々、思い切り話をさせていただきたいと思いますし、僕たちも皆さんの思いに対してしっかりと答えられるように一生懸命頑張りますので、よろしくお願いします。

## 議長／福地中学校 小松勇夏

これより学生議会の質問を行います。質問通告者は、平坂中学校 平松紗彩議員、吉良中学校 井土瑛太議員、佐久島しおさい学校 細川希咲議員、鶴城中学校 本多太一議員、一色中学校 佐々木聖流議員、幡豆中学校 山本希美議員、寺津中学校 宮地瑛大議員、東部中学校 新家侑奈議員、西尾中学校 榊原琉意議員、私、福地中学校 小松勇夏、以上の10名です。

質問の順番は、お手元に配付しました質問通告書一覧にある発言の順番のとおりです。順次、発言を許可します。

最初の質問者、平坂中学校 平松紗彩議員。

## 平坂中学校 平松紗彩

それでは、通告に従い質問します。

私のテーマは「男性の育児休業取得率について」です。

私は最近、学校の公民の問題集で男性の育児休業取得率の低さを知りました。そこには、男性の取得率は6.1%、女性の取得率は82.2%と示されていました。私は以前、アメリカやノルウェーなどの男性の育休取得率についてのニュースを見たことがあったので、日本がこんなに低いとは思わず、とても驚きました。

また、他の資料の6歳未満の子どもを持つ夫婦の1日当たりの育児時間を見ると、男性は1日あたり約50分、女性は約230分と示されていました。私は女性の方が子どもと接する時間は長くなるという認識はありましたが、これほどの差があるとは思いませんでした。

た。

そこで、男性の育児についてインターネットで調べてみました。すると、自分がワンオペ育児状態になっていると感じている女性は6割超、自分が毎日育児に参加していると答える男性の割合は約3割という事実を目の当たりにしました。これらのことから、育児の負担が女性に偏っていると感じました。

私は、男性と女性はお互いに協力し合って、負担を分け合いながら育児を行うべきだと思います。また、自分の将来を考えたときにも、配偶者と協力し合い育児を進めていく、そんな社会が広がっていてほしい、また、そんな社会を次の世代に残していきたいと思いました。そこで、男性と一緒に育児を行うには、今よりも男性の育休取得率を上げる必要があると感じます。

そこで3つの質問をします。

まず、今の西尾市の男性の育児休業取得率はどのくらいですか。

### **産業部長／加藤英之**

西尾市全体の男性の育児休業取得率は、市内の事業所を対象として調査は行っておりませんので、現在、把握はできておりません。しかし、令和2年度に国と県が調査をしていますので、その結果について報告させていただきます。

まず、国の調査による男性の育児休業取得率の結果につきましては、12.65%でした。愛知県が実施した県内の男性の育児休業取得率は4.7%でした。

### **平坂中学校 平松紗彩**

ありがとうございました。

全国的に見ても愛知県の取得率は低いと感じます。愛知県には大きな企業がたくさんあると思いますが、だからこそ取得率を上げて、育休を取りやすい雰囲気を広げていくべきだと思います。

では、再質問します。

西尾市職員の男性の育児休業取得率はどのくらいですか。

### **総合政策部長／高原 浩**

西尾市役所の男性職員の育児休業取得率について、お答えします。平成30年度に休暇を取った職員は1人で、取得率は2.7%、令和元年度は2人で、6.7%、令和2年度は3人で、9.4%です。

徐々に取得率が上がってきたところですが、今年度はさらに上がっておりまして、12月の時点で休暇を取った職員は8人、取得率は40%でありました。

### **平坂中学校 平松紗彩**

ありがとうございました。

年々取得率が上がり、今年度は4割の方が取得しているということは、それだけ取得しやすい環境やサポートがあるのだと分かり、とてもいいと思いました。

続いて、2つ目の質問に移ります。

市長さんが以前「育休」を取得されていましたが、なぜ取得したのか理由を教えてください。また、取得した後に何か変化はありましたか。

### **市長／中村 健**

わが家は核家族で、最初の市長選挙の直前に長男が生まれました。それからしばらくは、仕事を優先して子育てをほとんど妻に任せきりでした。しかし、仕事から帰って妻と話をする中で、すごく大変だということが分かりましたし、子育てをこのままずっと妻に任せきりにするのは、すごく無責任だと自分で思いました。そこで、2人目の次男が生まれたのを機に、育休を取ろうと決めました。

実際に、子育てを自分なりに頑張ってみると、父親としての自覚や責任感が生まれただけでなく、家族の仲も良くなりますし、子どもは自分の思ったとおりに動きませんので、我慢する気持ちが強くなったり、あとは自分中心に考えるのではなく、子ども中心に考えるというように、人として成長できた面も大きかったのかなと思っています。

人として成長できた部分は、仕事にも生かすことができるので、昔は子育てに時間を取ると仕事に支障が出てしまうと思う人もいたようですが、そのようなことはないのです、そういった考え方を持たずに、多くの男性の方々に積極的に子育てに携わってほしいと思っています。

### **平坂中学校 平松紗彩**

ありがとうございました。

市長さんが積極的に育児に協力することで、市民や職員の意識や考え方が変わり、育児による負担を男女で分け合えるような、そんな社会になればいいと思いました。

また、市長さんがおっしゃっていたように育児は家族の絆を深められるだけでなく、子どもの成長を自分で感じることもできたり、人として成長できるという点があるので、やはり、今よりも男性の育児休業取得率を上げる必要があると感じます。

続いて、3つ目の質問に移ります。

西尾市は今、男性の育児休業取得率を上げるために、どのような政策を行っていますか。

### **産業部長／加藤英之**

男性の育児休業取得率を上げるためには、労働者と雇用主がお互いに制度を理解して、育児休業が取りやすい環境づくりに努めることが大切だと思います。

そのためには、まず労働者が育児休業の取得促進と、雇用主が環境整備の義務について理解を深めていただくために、市としては労働講座やセミナーなどを開催して、男性の育児休業取得率が上がるように取り組んでいきます。

しかし、現状は、従業員の多い企業につきましては、労働環境が整っているため育児休業が取りやすい状況にあるのですが、例えば、家族経営など従業員が少ない会社になりますと、育児休業を取ることも、普通に休むことも自体も難しい状況にある会社もあるということを理解していただきたいと思っています。

### **平坂中学校 平松紗彩**

ありがとうございました。

それぞれの働いている環境や特性を生かし、その上で気軽に育休が取れるような体制をつくり上げていってほしいと思いました。

また、私は今まで西尾市が講座やセミナーを実施していることを知らなかったもので、これからは自分で調べて、育休についてより理解を深めていこうと思いました。

では、再質問します。

西尾市役所では、男性職員の育休取得率を上げるために、どのような政策を行っていますか。

### **総合政策部長／高原 浩**

西尾市役所で行っている取り組みにつきましては、昨年度、「男性職員の育児休業等取得促進マニュアル」をつくりました。その中で、子どもが生まれる男性職員に対して、上司が面談を行い、育休などの制度説明をしながら、休暇を取ることを後押しすることとしています。

また、課長以上の職員については「イクボス研修」を行い、全員で「イクボス宣言」をしたり、若手職員を対象に「イクメン研修」を行ったりして、育休を取りやすい雰囲気づくりをしています。

### **平坂中学校 平松紗彩**

ありがとうございました。

男性の方が育休を取る割合が低い中、上司の方に休暇を取ることはなかなか言いにくいことだと思ったので、そのような活動はとても効果的で職員思いの活動だと思いました。そして、男性は仕事、女性は家事・育児という概念がそういった活動を通して育児や家事、夫婦の負担は分け合うものだといった考え方に変わってほしいと思いました。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

### **議長／福地中学校 小松勇夏**

平坂中学校 平松紗彩議員の質問が終わりました。

次に、2番目の質問者、吉良中学校 井土瑛太議員。

### **吉良中学校 井土瑛太**

それでは、通告に従い質問します。

僕のテーマは「スポーツがより盛んな西尾市にするために」です。

僕は、バスケットボールをやっていて、よく市内の体育館を利用しています。しかし、いつも僕と同じ年齢層の人や20代から30代の人しかアリーナを利用していないと感じています。また、最近祖母から、運動不足が原因で病気にかかってしまった人がいるという話を聞きました。僕は、年配の方々がスポーツをされているのを見たことはあるのですが、種目は卓球やグラウンドゴルフくらいしか見たことがありません。

その一方で、名古屋市は西尾市よりもスポーツ施設の数が多く、利用者数も西尾市と100万人近く差があります。これは名古屋市の人口が単に多いからではなく、スポーツ施

設の数が多いからなのではないかと思えます。また、名古屋市では、年配の方向けに社交ダンスや太極拳など、さまざまなスポーツ教室を開催していることが調べて分かりました。

西尾市は、今年4月に、スポーツを通して元気になるまちを築くために「スポーツ都市」を宣言したと聞きました。そこで、西尾市ももっと多くの方がスポーツ教室に参加したいと思うように、より多様な教室を開催し、スポーツを通して地域における健康づくりをさらに盛んにしてみてもはどうでしょうか。それと同時に、新しくスポーツ施設を建てたり、もっと多くの方にスポーツに関心を持ってもらえるように、スポーツ教室の開催状況等を市のホームページや広報誌、LINEなどのSNSを通じて、さらに盛んに発信したりしてほしいです。

以上の意見を踏まえ、質問します。

今後、新しいスポーツ施設を建てる予定はありますか。

### **交流共創部長／内藤貴久**

西尾市では、老朽化するスポーツ施設が多く、近隣の市と比べても見劣りすることは十分理解しておりますし、問題意識も持っています。施設のバージョンアップとスポーツを通じた地域の活性化を目標に、20年後を見据えた「スポーツまちづくりビジョン2040」という計画を令和3年度、4年度の2か年をかけて作成しています。

この計画は、市民やスポーツ団体へのアンケート調査を基に、市民の活動ニーズを反映させるとともに、まちづくりの核として市外からも人が呼び込めるようなスポーツ施設の整備に取り組みます。

その先がけとして、現在、吉良町地内にソフトテニス、硬式テニスの両方で大きな大会が開催可能な8面のテニスコート場を整備する計画を作成しています。早ければ令和7年度から利用できる予定です。20年後、中学生の皆さんが30歳代となり、仕事を含め心身とも充実した年齢を迎えたときに、西尾市に住んで良かったと思っていただけるような施設整備を目指していきます。

### **吉良中学校 井土瑛太**

ありがとうございました。

スポーツまちづくりビジョン2040という計画では、市外からも人が呼び込めるようなスポーツ施設の整備に取り組むということです。ぜひ実現してほしいです。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

これから生涯スポーツ社会の実現に向け、子どもから年配の方まで楽しむことのできるさまざまなスポーツ教室を開催する予定はありますか。

### **交流共創部長／内藤貴久**

西尾市は、平成26年3月に西尾市スポーツ推進計画を策定し、「スポーツで元気になるまち西尾～全ての人にスポーツの喜びを～」を基本理念としたスポーツの振興に努めています。提案事項にもありました令和3年4月に、市民の皆様とともにスポーツで元気になるまち西尾を築くため「スポーツ都市」を宣言しました。

現在の主なスポーツ教室の開催状況ですが、スポーツ振興課では、スポーツ協会に団

体登録していない体操やスケートボードなどの種目を実施しています。また、スポーツ協会にテニス・卓球・バドミントンなどの競技種目についてのスポーツ教室を委託し、幅広い年齢層が参加できるように実施しています。

さらに、吉良地区をはじめ、地域の方が中心となってスポーツ活動に取り組む団体が市内に4つあります。これらの団体では、ドッジボールやグラウンドゴルフなど地域に即した特色ある教室を開催しています。加えて、スポーツ推進委員会による短期的な教室であるファミリーバドミントンやショートテニスなど、比較的簡単にでき、親子で参加できるニュースポーツも中学校区ごとに開催しています。多種多様なスポーツ教室を開催しており、今後も市民のニーズを反映したスポーツ教室の開催に努めていきます。

### **吉良中学校 井土瑛太**

ありがとうございました。

西尾市がこれからもっとスポーツを盛んにする取り組みを行う予定があると分かってとても良かったです。スポーツがより盛んな西尾市にするために、名古屋市のようなスポーツが身近な環境づくりをしていってくださるとうれしいです。

最後にお願ひがあります。僕の周りではバスケットリングやコートを建ててほしいという声がたくさんありますので、「スポーツまちづくりビジョン2040」の計画を作成する際に、公園や空き地などにバスケットリングやコートの建設も考えてくださるとうれしいです。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

### **議長／福地中学校 小松勇夏**

吉良中学校 井土瑛太議員の質問が終わりました。

次に、3番目の質問者、佐久島しおさい学校 細川希咲議員。

### **佐久島しおさい学校 細川希咲**

それでは、通告に従い質問します。

私のテーマは「誰もが考え、行動できる西尾市にするために」です。

今日、この学生議会には各中学校の代表の生徒が集まっています。私は、この学生議会のように各校の代表が集まって、それぞれの学校が抱える問題や地域に関わる課題について話し合い、考える場を設けていただけたことをとてもうれしく思っています。

なぜなら、この議会では、学生である私たちが西尾市の今や未来を1人1人が真剣に考え、5年後、10年後の西尾市を今よりももっと素晴らしいまち、住みやすいまちにするにはどうしたらいいか、自分たちの考えや思いを発信することができるからです。また、そうした仲間のさまざまな思いや現実的な西尾市としての考えに触れることで、今まで以上に視野を広げることができる、そう考えるからです。そして、こうした西尾市のさまざまな課題を自分事として考えていくことが、中村市長が言われる「ONE NISHIO～チーム西尾市で心一つに～」につながっていくのだと思います。

そこで、私が取り上げたいと考えた身近な課題が、佐久島しおさい学校のことです。

私は、佐久島しおさい学校に、毎日船で通う「しおかぜ通学」をしています。

学校では、島の人たちと一緒に活動することが多くあります。海の環境を守るアマモボランティアや島の古墳を守る古墳ボランティアなどです。ボランティアをきっかけに、地域の方との交流が生まれ、さまざまな学校での活動に協力していただいています。

また、佐久島全体に目を向けると、漂流ごみや外来生物などのさまざまな環境問題があります。私は、総合的な学習の時間に、外来生物であるヌートリアや佐久島の自然環境の変化などの問題について追究をしています。自分事として、問題と真摯に向き合い、考えることで、行動力や決断力、発表する力が身に付き、多くのことが学べる学校だと思っています。また、このように佐久島と学校とのつながりが深まることが、佐久島の地域活性化につながっていると考えます。

しかし、そんな学校も、佐久島の少子高齢化がこのまま進み、島に住む若い人たちが減っていくと、新入生がいなくなってしまうます。実際、今島に住む0才から5才の子どもは2人しかいません。子どもたちがいなくなれば、学校がなくなってしまうます。そんなことになったら、この島自体の活気が失われることでしょう。

私は、この学校で生活する中で、たくさんの島の方々との交流をしてきました。佐久島太鼓を学んでお祭りで披露したり、運動会や学芸会では島の人たちと一緒に楽しい時間を過ごしたりしてきました。島の人たちにとってもこの学校はなくてはならない場所であり、私たちにとっても島の人たちは、なくてはならない存在です。

そこで学校がなくならないためには、佐久島しおさい学校に興味を持ってもらうことが大切だと思いました。例えば、幼稚園や保育園に佐久島しおさい学校の良いところを自分たちでまとめたチラシを配ったり、実際に私たちが学んだことを発表し、聞いてもらったりすることで、「佐久島に通ってみたいな」と思ってもらえるのではないかと考えました。

佐久島の未来、その中心にあるわが母校がなくならないためにどうすればいいのか、市長さんや教育長さんも一緒に考えていただけませんか。

そこで、私にとって大切な佐久島のことについて質問します。

佐久島に学校があることで、佐久島の良さを学び、発信することができています。今後、佐久島しおさい学校がなくならないために、西尾市としてどのように考えていらっしゃるのか、お聞かせください。

## **教育部長／齋藤武雄**

佐久島の島民で学校へ通う児童生徒数は、平成23年度は19人でしたが、今年度は13人です。今後も、島民人口の減少に伴う児童生徒数の減少が続くことが予想されます。

こうした状況への対応の1つとして、令和元年度から佐久島小・中学校を義務教育学校に変更しました。これにより、9年間を見通した1つの学校として教育活動を行うことができるようになりました。

2つ目の対応としましては、しおかぜ通学を増やすためのPRが必要であると考えています。例えば、佐久島しおさい学校では、これまでも力を入れてきた生活科や総合的な学習の時間に加え、英語教育の充実や教科担任制の導入など、佐久島しおさい学校ならではの魅力的な教育活動を受けることができます。また、通学にかかる渡船代も市が負担しています。今後も、魅力的な教育活動を、島の皆さんとともに実践していけるよう進めて



いきます。ちなみに、今回、細川議員が本日の学生議会で議題として取り上げていただけたことも、佐久島しおさい学校やしおかぜ通学のことを知っていただくことに大いに役立っています。今後も佐久島しおさい学校やしおかぜ通学の魅力を高め、市の広報紙等を通じて積極的に発信していくことで、佐久島しおさい学校が存続していけるように努めていきたいと考えています。

#### **佐久島しおさい学校 細川希咲**

ありがとうございました。

ご答弁いただきましたように、佐久島しおさい学校を魅力ある学校にして、しおかぜ通学で通う児童生徒をこれまで以上に増やしていこうという考えには、私も大賛成です。私自身も佐久島しおさい学校がさらに魅力ある学校にしていけるように頑張っていきたいと思えます。

しかし、学校の努力だけでは限界があります。

そこで、再質問します。

西尾市としても、佐久島の人口を増やすような取り組みを積極的に行っていただけませんか。

#### **交流共創部長／内藤貴久**

島の人たちは、口癖のように「子どもは島の宝だ」と言っています。そして、人口を増やすために、これまでも島の活性化を進めています「島を美しくつくる会」の皆さんと移住希望者の相談や島での生活情報などを発信しています。

また、今年度から島の活性化や将来の定住を目指す「地域おこし協力隊」を導入し、島に住んで活躍してくれています。

さらに、空き家を活用して「おためし移住ツアー」を計画し、移住希望者の方たちに島の生活を体験してもらい、抵抗なく、新しい土地で住めるようサポートを行います。

他にも、島の人口を増やす取り組みとして、4年前からサツマイモの栽培を本格的に進め、佐久島オリジナルの芋焼酎づくりを始めています。

また、家族ごと移住してもらおうことを目指し、まずは、お父さんやお母さんがリモートワークで仕事ができるようにネット環境を整備し、佐久島クラインガルテンでは、ワーケーションとして活用するために企業誘致を行っています。

将来的な取り組みとしては、保育園に入園する年代の子どもには自然の中でのびのびと過ごしてもらい、学校に入学してからはICT教育に特化した授業が受けられるような環境づくりを行い、島の付加価値を高め、島に住みたいという人が増えるような計画を進めたいと考えています。

#### **佐久島しおさい学校 細川希咲**

ありがとうございました。

ご答弁いただきましたように、佐久島のこと、佐久島しおさい学校のことを前向きに考えてくださっていることが分かり、とてもうれしく思いました。

今回、私が「誰もが考え、行動できる西尾にするために」というテーマにしたのは、

佐久島の課題をきっかけとし、この場にいる皆さんや市民の皆さんが、佐久島や西尾市の未来について、ともに考え、行動し、実現していこうとすることが大切だと考えたからです。私にとって、この学生議会は、佐久島のことを考えるための良いきっかけとなりました。これからも、私自身で何ができるのか、考え、行動していきたいと思います。今後ともよろしく申し上げます。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

### **議長／福地中学校 小松勇夏**

佐久島しおさい学校 細川希咲議員の質問が終わりました。

次に、4番目の質問者、鶴城中学校 本多太一議員。

### **鶴城中学校 本多太一**

それでは、通告に従い質問します。

僕のテーマは「西尾市民の憩いの場について」です。

僕は、市内に西尾市を象徴する、市民の憩いの場となる公園が少ないと感じています。市内に小規模公園はいくつもありますが、碧南市の臨海公園や安城市にあるデンパークのような大規模な公園、緑地といえるのは「愛知こどもの国」のみです。しかし、その愛知こどもの国も、市街地からのアクセスや利用しやすさなどを考えると、憩いの場所として十分な役割を果たしているとは言えません。

その一方で、第7次西尾市総合計画後期計画には「公園の整備」が計画の1つとして挙げられています。憩いの場を整備するのであれば、今後、西尾市を象徴する大規模な公園をつくるべきではないでしょうか。休日、家族で近場に遊びに行きたい、そんなときにも大きな公園があると便利です。また、子育ての面でも助かります。今の世の中、スマートフォンやゲームを触ってばかりいて、ひきこもり状態になっている子どもも増えていると思います。子どもの健康や安全のためにも、思い切り体を動かせる場は近くに必要です。誰もが利用しやすい公園があれば、子育ての面などでも助かるため市に対しての信頼も高まり、住み続けたいと思える市民も増えるのではないのでしょうか。他の市を真似するのではなく、西尾市にしかない良さをもった大規模な公園をつくってほしいと思います。

そこで質問します。

第7次西尾市総合計画後期計画に「公園の整備」とありますが、具体的にどのような計画があるのでしょうか。

### **都市整備部長／吉田修二**

総合計画後期計画の「公園の整備」の内容には、継続して整備を進める公園や今後整備を進める公園を位置付けているほか、古くなった公園施設の安全対策や維持管理、公園の市民参加による整備方針なども位置付けています。公園整備の具体的なものとして、継続整備中の八ツ面山の東側に整備した岡ノ山遊ぼっ茶広場を含めた「親子で楽しめる公園」があります。

また、新たに整備する主な公園は、市街地内で効果的な利用が難しいまとまった農地などを良好な住宅地へと整備する土地区画整理事業の区域内につくる公園であり、例とし

て、鶴城小学校の西側にある伊藤1号公園がこの公園に該当します。

これらの公園は都市公園として整備していて、整備済みの都市公園は市内に64カ所、今後、新たに整備を進める公園は、区画整理の区域内に2カ所、保育園の跡地に1カ所の計3カ所を予定しています。

次に、公園施設の安全対策や維持管理は、公園を安心して利用していただくために、ブランコなどの遊具については毎年点検し、古くなった施設などは計画的に新たな施設につくりかえるなどの対応に努めています。

最後に、市民参加による公園の整備方針は、新しい公園の整備や既にある公園施設をつくりかえる際には、地域の方々の意見や要望を取り入れ、整備計画を作成することになっているため、公園を一緒につくりあげるための会議を整備する地域ごとに開催し、公園整備を進めています。

このように公園の整備や維持管理を総合計画などに基づき計画的に行うことにより、安全とうるおいのある環境をつくとともに、市民が憩うことのできる公園整備に努めています。

#### **鶴城中学校 本多太一**

ありがとうございました。

僕も、市民の意見を取り入れる会議は必要だと感じます。これからもこういった会議の開催は続けてほしいと思います。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

安城市にあるデンパークは、ソーセージを前面に出しています。西尾市にも「西尾の抹茶」をテーマとした、大規模な公園をつくりませんか。

#### **都市整備部長／吉田修二**

デンパークや臨海公園のような大規模な公園は、西尾市の公共交通による利便性やアクセス性を考えると、整備する場所の選定が非常に難しく、場所によっては騒音や照明などによる環境面への配慮や人が集まることによる防犯面・安全面への配慮も必要になり、地域住民などから理解を得ることも簡単ではないと考えます。

さらに、公園用地の購入及び整備に数十億円の費用がかかる上に、運営には年間数千万円の維持管理費が必要となりますので、今のところ大規模な公園をつくることは考えていません。近隣市に費用等を確認したところ、臨海公園の整備費用しか分かりませんでした。整備費のみで約20億円かかったとのことでした。

なお、「抹茶をテーマとした公園」については、西尾市が新たに公園を整備する際は、地域の方々と交えた会議を開催し、利用する方の意見を聞いて、可能な限り意見を取り入れた公園づくりをしていますので、会議の中で「抹茶をテーマにした公園」という意見があれば、この意見を踏まえた整備内容についての検討は可能であると考えています。

今後整備する公園につきましても、引き続き利用する方の意見などを取り入れ、公園に親しみを持ち、憩いの場として利用してもらえるように努めていきます。

#### **鶴城中学校 本多太一**

ありがとうございました。

大規模な公園をつくることは考えていないということですので、抹茶をテーマとした公園という点で再質問します。

市民の憩いの場として、抹茶を楽しめるような施設についてはどうですか。

### **交流共創部長／内藤貴久**

西尾の抹茶は全国に誇る西尾市の特産品であり、令和3年3月には「西尾の抹茶でお客様をおもてなししましょう」という西尾市独自の目標を定め、抹茶を前面に出しながら、市全体でおもてなし機運を高めていくことを目指しています。

歴史公園には、抹茶を嗜みながら庭園を鑑賞することのできる旧近衛邸など、市内には気軽に抹茶を飲める施設が多くあり、観光客や市民など多くの人に親しまれています。

また、来年度には、西尾市上町の稲荷山茶園公園に「浮かぶ茶室を持つトイレ」として、普段はオブジェとして、イベント開催時には茶室として利用できるような「観光トイレ」を整備していく予定です。

今後も、市民の憩いの場になるとともに「西尾の抹茶」を全国の皆さんに認知してもらえるような取り組みを考えていきます。

### **鶴城中学校 本多太一**

ありがとうございました。

西尾の抹茶を認知してもらえるような活動は、ぜひ続けていただきたいです。また、今までにあるような公園をつくるのではなく、西尾市らしい公園をつくることは重要だと思いますので、ぜひ今後も検討をお願いします。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

### **議長／福地中学校 小松勇夏**

鶴城中学校 本多太一議員の質問が終わりました。

次に、5番目の質問者、一色中学校 佐々木聖流議員。

### **一色中学校 佐々木聖流**

それでは、通告に従い質問します。

僕のテーマは「安心安全な一色町」です。

僕は、西尾市、特に一色町で、課題と思っていることは3つあります。

1つ目は、防災についてです。一色町は地震発生時、海から最も近く、津波が来ると言われていて、とても危険だと感じています。そんな一色町に、津波避難タワーが生田地区と千間地区の2カ所に建設されていますが、いつ発生するか分からない地震に対して少しでも安心できるように、もっと数を増やし、速やかに建ててほしいと思っています。

2つ目は、環境についてです。僕の通学路には多くのごみが落ちています。防犯の観点から、至る所にごみ箱を設置することは難しいと思います。しかし、コンビニなどの地域のお店や公民館などの公共施設と連携して、その場所に防犯を意識した、安心して捨てられる市民用ごみ箱を設置すれば、ごみのポイ捨ては減ると思いました。

3つ目は、いっちゃんバスの利用状況です。本当に少ないように感じます。200円で自由に1日乗車でき一色町内を回れるのは便利だと思います。ならば、1日4便のうち一色町公民館から最後に吉良吉田駅、福地駅へ交互に行くことはできないでしょうか。僕たち中学生は、自転車で一色町内は移動できます。しかし吉良吉田や福地へはなかなか行ける距離ではありません。そういった観点からも、よく利用する駅を追加することができれば、名鉄電車の利用者が増加し、にしがま線の存続にもつながると考えます。

そこで質問です。

高齢者や体の不自由な方は、津波避難タワーまでどのようにして避難しますか。

### **危機管理局長／山本吉明**

津波避難タワーは、地震が発生してから津波が到達するまでの間に、津波により命や身体に危害が及ばない区域である「津波災害警戒区域外」への避難が難しい、高齢者や体の不自由な方など避難に時間がかかるなど配慮を要する方「要配慮者」とその支援者が一時的に避難する場所として、津波により浸水する高さより高い建物のない地区に10カ所建設を計画しています。その内5カ所は、一色町地内に建設する予定をしています。

地震により道路等は液状化することが想定されますので、歩いての避難を想定しています。そのため、要配慮者の方は、長距離の移動が困難になるので、概ね1キロ以内の場所に津波避難タワーなどの一時待避所などを確保する計画で進めています。

まずは、避難する際は自身の命を守ることが大切ですが、家族に要配慮者がいる場合や、近所に要配慮者が住んでいたり、1人で避難している高齢者などを見つかりした場合などは、是非声をかけていただいて、助け合って津波避難タワーまで避難していただきたいと思います。

また、佐々木議員と一緒に避難することになった場合は、津波避難タワーには、避難スペースへの搬送のための担架も用意していますので、搬送のお手伝いも可能な限りお願いしたいと思います。

### **一色中学校 佐々木聖流**

ありがとうございました。

1キロ以内に一時避難所などが建設されると聞き、安心しました。一色町には多くの高齢者がいらっしゃいます。多くの人の命を守るために、自分から搬送のお手伝いなどをさせていただきたいと思っています。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

2つ目に提案した市民用ゴミ箱設置は、実現可能でしょうか。もし不可能であれば、どのようにしてごみのポイ捨てを減らそうとお考えですか。

### **環境部長／鈴木雅博**

ポイ捨ての問題につきましては、西尾市のみならず、全国的な問題でもあります。ごみは、ごみを出した人が責任を持って片付ける、処理することが大原則となっています。この原則は、私たちが生活する上で、家庭ではお父さんやお母さんから、また、学校では、先生から聞いていると思います。しかし、悪いことだと分かっているのに、つい捨ててしま

う、中には無意識のうちに捨ててしまうことがあると思います。

町中の至る所にごみ箱があれば、捨てられなくなるかもしれません。しかし、ここのごみ箱はごみがあふれている、あそこにもごみ箱がある、こんなまちってどう思いますか。日頃から、ごみは捨てずに持ち帰るという大原則を守れば、ごみもごみ箱もない、きれいなまちになるとと思いませんか。

したがって、今のところ、西尾市では、ポイ捨て用のごみ箱を設置することは考えていません。現在、市のごみ減量課では、ポイ捨てに対処するため「ポイ捨て禁止」と「ごみ捨てを禁ず」の2種類の看板を、要望のある町内会に配布し、設置してもらって啓発をしています。

また、小学校や依頼のあった町内会などの団体に対して、ごみの減量や正しい分別の仕方、リサイクルの進め方についての講座を出向いて開催しています。

このような活動は、すぐには効果が得られるものではありません。継続的に行っていくことによって、ごみのポイ捨てのない西尾市を目指していきたいと思います。

### **一色中学校 佐々木聖流**

ありがとうございました。

1人1人の意識がまず大事だということが再確認できました。生徒会の一員として、一中生をはじめ、地域の方々へその意識をもっと高めていきたいと思いました。

続きまして、3つ目の質問に移ります。

実際の「いっちゃんバス」は市の考えている利用状況になっていません。運転免許を持たない方や10代の若者などが利用しやすいように、行き先に駅を追加したり増便したりすることはできないでしょうか。

### **市民部長／小林明子**

令和2年4月に、いっちゃんバスは地域の皆さんが考えたルートに変更しました。令和2年度は年間2,724人の利用があり、1便当たり1.1人となっており、目標としている1便当たり3人には届いていません。また、1人当たり7,856円の費用がかかり、他のコミュニティバスより市の負担が多くなっています。新型コロナウイルス感染症の拡大により、外出をやめたり、バスや鉄道などの公共交通を利用しなくなった人が多くなった影響もあると思います。

行き先に駅を追加するという要望ですが、一色地区では、一色町公民館を拠点に「ふれんどバス」「名鉄東部交通バス」「いっちゃんバス」が運行しています。ふれんどバスと名鉄東部交通バスは通勤や通学で使えるように名鉄電車の駅まで行けるようなルートに、いっちゃんバスは買い物や通院など日常生活の足としていろいろ地域を細かく走るように、役割を分担していますので、いっちゃんバスのルートに駅を追加することは考えておりません。

また、増便については、たくさんの方が乗ることが重要ですので、利用者が増えて、増便してほしいという皆さんの要望が大きくなれば、今後検討する必要があると考えていますので、佐々木議員もぜひたくさん乗ってください。

### 一色中学校 佐々木聖流

ありがとうございました。

僕は、目的に応じてバスが運行されていることを初めて知りました。いっちゃんバスが日常生活の足であることを中学生に広め、利用者が増えるように伝えたいと思いました。

さまざまなご回答をありがとうございました。僕は一色町が大好きです。より安全に、より快適な一色町になるために市政をよろしくお願いします。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

### 議長／福地中学校 小松勇夏

一色中学校 佐々木聖流議員の質問が終わりました。

ここで、しばらくの間休憩します。午後3時15分より再開します。

(休 憩)

(再 開)

### 議長／佐久島しおさい学校 細川希咲

皆さん、こんにちは。

私は後半の議長職を務めさせていただき佐久島しおさい学校の細川希咲です。よろしくお願いします。

それでは、休憩前に引き続き会議を開き、質問を続けます。

6番目の質問者、幡豆中学校 山本希美議員。

### 幡豆中学校 山本希美

それでは、通告に従い質問します。

私のテーマは「暮らしやすいまちづくりについて」です。

私は、自分の住んでいる幡豆町がとても好きなので、将来もずっとこのまちに住み続けたいと考えています。しかし、幡豆小学校の1年生が今年度1クラスになるなど、人口がどんどん減ってしまっています。今後、電車がなくなってしまうたり、学校が減ってしまったりして、住みづらくなってしまうのではないかと考えることがあります。将来、自分が住み続けるにあたって、便利で暮らしやすいまちであってほしいと思います。

昨年度、総合的な学習の時間に防災の学習を行い、私は「二次災害」をテーマに調べ学習を進めました。調べ学習を進める中で、地域の防災について考えてみました。最近では、空き家が増えていると聞いたことがありますが、今、私の家の近くにも、住む人がいないのに解体されず、崩れそうな空き家が何軒もあります。このままでは大雨、土砂災害などで、より大きな被害が出てしまう心配があります。空き家などは危険なので、それを解決するために、空き家のリノベーションや再利用をして、町民の集いの場をつくって地域の人が交流できる場所にするとういと思っています。

また、将来も幡豆町に住み続けるにあたり、西尾駅や蒲郡駅に行くための交通手段の「にしがま線」が今後も存続されるのか不安です。令和7年までは存続するとニュースで見ました。しかし、それから先も車でなくても行動できるように、にしがま線が存続してほしいと思います。また、もし廃線になった場合は、電車の代わりにするバスなどの交通手段があってほしいと思います。

そこで質問します。

空き家について、どのような対策や有効活用をしていきますか。また、土砂崩れなど災害時に危険な場所にある空き家は、より大きな被害を出さないためにどのように対策をしていきますか。

### 市民部長／小林明子

空き家は、原則、個人の財産であるため、住宅街にある空き家も山に近い空き家も区別することなく、所有者の責任において管理していただきたいと思います。しかしながら、市内には適正に管理されていない空き家が多くあります。適正に管理するというのは、すぐに壊すことができない場合でも草木はすぐに成長してしまうので、定期的に草を刈り、枝を落とすこと、定期的に見回り、瓦や外壁が飛ばないように補強などをすることです。長期間放置され倒壊や草木が成長した空き家は、通学路や交通の妨げにもなりますので、危険な空き家として、所有者や相続人に対して適正な管理をお願いするよう個別に文書を送っています。そのときに空き家の解体、売却、空き家見回りサービスなどの管理の方法が載っているチラシを同封して解決を促しています。

空き家になってから慌てることがないように、また、近隣住民に迷惑をかけないためにも、どのように維持・管理・処分していくか、空き家になる前から家族で話し合うことがとても大切と考えます。

今後も引き続き、管理ができていない空き家の所有者に、粘り強く適正管理をお願いし、地域住民の生活環境の保全に努めます。

### 幡豆中学校 山本希美

ありがとうございました。

空き家を減らすために、市として取り組んでいることが分かりました。私も将来、地域の人たちが困らないよう、今住んでいる家をどう守っていくか家族で考えようと思います。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

今後のにしがま線の存続状況について教えてください。また、もし、にしがま線が廃線になった場合、それに代わる公共交通機関として、西尾駅や蒲郡駅に行くためのバスなどの運行についてどのように考えますか。

### 市民部長／小林明子

にしがま線の愛称で親しまれている名鉄西尾・蒲郡線、西尾駅から蒲郡駅の間ですが、山本議員も知ってみえるように赤字が続き存続が危ぶまれています。令和7年度まで運行することが決まっていますが、その運行を続けるために毎年、名鉄に対し西尾市が1億5千万円、蒲郡市が1億円を支払っています。

新型コロナウイルスの影響により利用者は激減し、赤字も8億円近くになってしまいました。令和8年度以降も運行を続けてもらうためには、今まで以上に乗客を増やす必要があります。

電車の代わりにバスの運行を、というご提案ですが、鉄道の長所は、大量輸送と時間



通りに運行されることなので、バスでは難しい部分があります。三河線が廃線となった後は、行きたい高校に通う手段がなくなったり、人の交流が少なくなり、皆さんの財産である土地の価格も下がってしまいました。にしがま線がなくなってしまうと同じようなことが起きます。

電車があることにより土地の価値を上げる、皆さんの進学の実選択肢を広げるなどのメリットも多いので、皆さんが住み続けたい魅力のある西尾市であり続けるためにも、にしがま線は絶対なくさないという強い決意を持って守っていきます。皆さんも「自分のまらの鉄道は自分たちで守る」という気持ちで、たくさん電車に乗ってください。

### **幡豆中学校 山本希美**

ありがとうございました。

先日、幡豆中学校は、「にしがま線夢シーサイドウォーク」を行い、にしがま線の存続をPRしました。また、私自身も、進学の実選択肢を増やすために、もっとにしがま線を利用したいと思います。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

### **議長／佐久島しおさい学校 細川希咲**

幡豆中学校 山本希美議員の質問が終わりました。

次に、7番目の質問者、寺津中学校 宮地瑛大議員。

### **寺津中学校 宮地瑛大**

それでは、通告に従い、質問します。

僕のテーマは「西尾市の未来について」です。

僕は、西尾市に生まれ、西尾市で育ってきました。その中で、西尾市がもっとこうだったら、これからこうなっていくといいなと思うことが何点かあります。

1つ目は、西尾市には園児や小中学生が遊べる施設、さまざまな職業体験につながる遊びや体験ができる施設がないということです。例えば、豊橋市には「こども未来館ここここ」のような室内で遊んだり、いろいろな体験ができる総合施設があります。また、田原市にも「ララグラン」という大きな施設があります。西尾市がより子育てしやすいまちになっていくように、このような施設が今後できるといいなと思います。

2つ目は、西尾市の魅力を市外、県外にもっと発信していけたらいいなと思います。例えば、マンホールのふたを西尾市の魅力にあふれたデザインにしたらどうでしょうか。西尾市の名産品や西尾市ならではの建物などをデザインしたら、他地域からの観光客誘致につながるのではないのでしょうか。

3つ目は、防災についてです。昨年度、寺津中学校1年生は防災について1年間学んできました。その中で名古屋市港防災センターを訪れて、多くの知識を得たり、1人1人が考えて自分の防災バックを作成したりしてきました。

西尾市にも1.8億円をかけて防災センターが建設されたという記事を新聞で見ました。今後、西尾市防災センターの取り組みを発信することで、家族で防災会議を開くなど、各家庭の防災意識が高まるきっかけになるといいなと思います。

そこで質問します。

今後、豊橋市の「こども未来館ここにこ」のような施設を建設する予定はありますか。

### **子ども部長／榊原稔裕**

豊橋市の「こども未来館ここにこ」は、豊橋駅の近くにあり、子どもを中心に市民が出会い、交流し、活動することで、町中ににぎわいや楽しさを発信する複合施設として平成20年に開館しました。

西尾市でも、天候に左右されず、いつでも親子や友達と遊ぶことのできる屋内遊び場の整備を考えています。構想といたしましては、主に小学生以下の子どもを対象としていまして、室内を年齢別・機能別に分けることによる安全の確保と、誰もがワクワクする楽しさが体験できる環境を整えることで、何度でも訪れたいと思える遊び場の建設を目指しています。イメージといたしましては、安城市のデンパーク内に「あそぼ～ネ」という施設がありまして、それを目指しています。

### **寺津中学校 宮地瑛大**

ありがとうございました。

十何年後は僕も子育てをしている可能性もあります。いつか、その施設で子どもと遊べる日が来ることを楽しみにしています。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

マンホールのふたのデザインを工夫して西尾市の魅力を外に発信していく方法について、どのように考えますか。

またマンホールのふたの活用以外に、西尾市では観光客を誘致するためにどのような取り組みをしていますか。

### **上下水道部長／榊原伸尚**

上下水道部関係分について、お答えします。

西尾市では、国の方針に従い、令和7年度までに公共下水道の整備完了を目指していますが、マンホールのふたについては、下水道の整備開始以来、市の木である「くすのき」のデザインで統一してきましたので、当面は、現状のマンホールふたで整備を進めたいと考えています。

しかしながら、西尾市の魅力を発信することは大変重要ですので、観光客の誘致につながるようイベントとのタイアップを図りながら、観光地周辺へスポット的にデザインマンホールふたを設置するなど、考えていきたいと思えます。

### **交流共創部長／内藤貴久**

交流共創部関係分について、お答えします。

現在、西尾市が行っています観光客を誘致するための主な取り組みですが、西尾市は歴史や文化、自然など豊富な観光資源に恵まれていることから、さまざまな観光ルートを設定したパンフレットを作成し、西尾市の魅力を発信しています。

また、今年度は名鉄グループと連携し、テレビCMを放映してもらったことや新たにユーチューブ動画の配信を開始するなど、多くの方々に西尾の魅力を知ってもらい、足を

運んでいただくことができたと思います。

一方で、「西尾の抹茶」や「一色産うなぎ」などの特産品を求めて訪れる方も多くあり、最近では若者をターゲットにしたインスタ映えするパフェやかき氷をお茶屋さんやカフェなどの店舗に開発してもらうとともに、多くの店で楽しんでもらえるようスタンプラリーも行っています。

コロナ禍になる前は、首都圏や西尾市と友好親善を結ぶ市町で行われる物産展のほか、海外から観光客を招くため、タイで開催される海外プロモーションにも参加するなど国内外で観光PRを実施し、西尾市の魅力を知っていただくためのさまざまな取り組みを行い、観光客誘致を進めています。

### **寺津中学校 宮地瑛大**

ありがとうございました。

僕の大好きなまち西尾市が、これから先、ますます魅力あふれるまちになっていくといいなと思います。

続きまして、3つ目の質問に移ります。

防災について、西尾市防災センターを今後どのように活用し、市民の防災の取り組みへとつなげていこうと考えていますか。

### **建設部長／岸本正二**

西尾市防災センターは、国土交通省と西尾市が共同で、志貴野地区河川防災ステーションの防災拠点となる施設として整備を進め、今年4月から市民の皆様にも利用していただけるようになっていきます。

この施設は、普段から市民の方々に防災意識を高めてもらう場所として利用していきたいと考えており、建物の中には水害に関するパネルや施設の模型なども展示をしています。

また、西尾市で唯一の夜間に離着陸できるヘリポートも併設しており、愛知県の防災ヘリコプターが訓練会場として使用しています。

なお、防災センターの隣には、矢作古川への水の流れを抑えて、下流域を洪水などの被害から守るための矢作古川分派施設も完成していますので、訓練や施設の見学を含めた、水害に関する防災学習なども行っていきたいと考えており、市内の小中学校にも案内をしています。

その他にも、毎年行っています消防団や自主防災会などが参加する水防訓練にもこの場所を使用する予定となっており、今後においても、子どもから大人までがこの防災センターを利用することにより、防災意識を高めていけるような取り組みを行っていききたいと考えています。

### **寺津中学校 宮地瑛大**

ありがとうございました。

今後も防災への意識を持ち続け、市の取り組みにも積極的に参加していきたいと思えます。今回、この会を機に、ここ西尾市のことを改めて真剣に考えてみました。強く感じ

たことは、14年間過ごしてきたここ西尾市は、本当に素敵なまちであるということです。名産品も数多くあり、交通や商業施設も発展しており、何より人が温かいです。

今後、ますます西尾市が、ここに暮らす全てのの人々にとって、過ごしやすいまちになるよう、僕もできることから始めていきたいです。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

### **議長／佐久島しおさい学校 細川希咲**

寺津中学校 宮地瑛大議員の質問が終わりました。

次に、8番目の質問者、福地中学校 小松勇夏議員。

### **福地中学校 小松勇夏**

それでは、通告に従い質問します。

僕のテーマは「歴史の保全」です。

この秋、僕は授業で、西尾市の歴史的建造物の保全について考えました。学習を進める中で、現在の井桁屋公園の場所には、大正時代に建てられた旧井桁屋という百貨店があったことを知りました。終戦後閉店し、百貨店としての機能を失った後も、文化的な価値を理由に、建物は存続を続けました。しかし、中央通りの拡幅工事や、存続させた場合にかかる費用を理由に、建物は2006年3月には完全に取り壊されました。

当時の地方紙を複数読んで調べたり、仲間と話し合ったりする中で、存続を望む市民の想いはくみ取れた一方で、存続がいかに困難であったかを学びました。拡幅工事で市民が得られるメリットの多さ、市の予算対象は多岐に渡り限りがあること、当時の市債の額を考えれば、妥当な判断であったと考えます。

歴史の保全の意義とは何かを考えさせられました。

保全の意義で真っ先に思い浮かんだのが、観光客等による経済効果です。西尾市の統計を調べてみると、令和元年度、多くの観光客を集めていたのは、福地の「憩いの農園」や「道の駅にしお岡ノ山」、「一色さかな広場」でした。これらは買い物等で日常的に利用できる施設です。一方、西尾市の文化財を調べると、国宝が1件、国指定の重要文化財が9件、県指定・市指定ではさらにその数が多いことが分かりましたが、いずれもどれほどの経済効果があるかは読み取れませんでした。なぜなら、これらは無料で、誰もが気軽に立ち寄れるからです。経済効果という視点だけでは、保全の意義を語れません。

そこで、僕が考える歴史の保全の価値と、今後の保全・活用についてのあり方を提案します。

保全の価値とは、歴史を介した交流にあると考えます。車窓からも見られる西尾城の外壁。実際、ある保護者の方は息子さんと西尾城付近を運転中、息子さんから突然、「あの穴を使って鉄砲や弓矢で攻撃したんだよ」と話しかけられたそうです。そこからしばらく歴史の話題に花が咲きました。祖父母と孫、地域のおじさんと子どもなど、文化財付近では数々の会話が生まれています。今年2月、新たに文化財に指定された「吉良家墓所」では、講演会や見学会が行われています。これもまた市民同士のコミュニケーションの場です。歴史の保全とは、人同士をつなぐ基盤としての価値があります。

保全・活用については、思い切って有料化を進めることを考えています。京都の世界

遺産と違い、有料化により人が来なくなるのではないかという不安もありますが、僕が考えるのは、敷地の一部を有料化にしたり、期間限定のイベントを企画したときに有料化にしたりする考え方です。先日、西尾城では、西尾藩鉄砲衆秋の軍事訓練が行われました。とても迫力があるイベントです。例えば、特別に抹茶付きでふるまう観覧席を設ければプレミアム感が出て、十分に集客は見込めるのではないのでしょうか。むしろ、多くの人から注目されるきっかけとなり、さらなる賑わいにつながると考えます。このような取り組みは、他の文化財施設でも十分に可能であり、その収益を歴史的建造物の保存にかける費用に充てることはどうかと考えています。

そこで質問します。

西尾城など文化財付近で、市として、特産品や関連商品を販売すれば、保全・活用の費用に充てられると考えますが、市としてこのような活動を行いませんか。また、行うことが難しい場合、どのような理由で難しいと考えますか

### **教育部長／齋藤武雄**

小松議員が歴史の保存の難しさや活用の意義を深く考えていることに感心しました。また、復元された西尾城の土塀が家族で話題になったエピソードを聞いて大変うれしくなりました。市としましても、歴史の保全の価値は「歴史を介した交流」であるという小松議員の考え方には、非常に共感するところです。

文化財がすぐに経済効果に結び付くことは少ないかもしれませんが、文化財を保存し、歴史を発信していくことは、まちのイメージや魅力の向上が期待できるとともに、市民のまちへの愛着を育むことにもつながるものと考えています。

小松議員の有料化の提案にあります、利用者に一定の費用を負担していただくことは、施設を維持するための財源を確保する上で大切な考え方だと思います。現在、西尾城などの文化施設においても特産品や関連グッズなどを販売しています。文化財の保全にかかる経費に見合う利益を得ることはなかなか難しいという現実もありますが、西尾を訪れる人々を増やす、ひいては西尾の歴史や文化財に関心や親しみをってもらうことにより、文化財を大切に作る気持ちを盛り上げ、保全や活用につなげられるよう、今まで以上に観光や産業などを担当する他の部局と協力して特産品等を販売するように工夫していきたいと考えています

また、今後は小松議員の提案を良いきっかけと受け止め、文化施設を有料化して施設保全費用に充てていった方がいいのか、無料にして多くの方が訪れてくれるようにした方がいいのか等についても、各施設の特徴を踏まえて、施設ごとに検討していきたいと考えています。

### **福地中学校 小松勇夏**

ありがとうございました。

今日の議会を通して、西尾市の歴史の保全についてさらに考えを深めることができました。「他の部局と協力する」というのは思いつきませんでした。観光や産業などの視点からも歴史の保全につながると分かり、さまざまな方向から盛り上げることが可能だと分かりました。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

### **議長／佐久島しおさい学校 細川希咲**

福地中学校 小松勇夏議員の質問が終わりました。

次に、9番目の質問者、東部中学校 新家侑奈議員。

### **東部中学校 新家侑奈**

それでは、通告に従い質問します。

私のテーマは「西尾市の環境美化について」です。

私が自転車に乗っているときに、1番気になるのは「ポイ捨て」されたごみです。川の中にお菓子のビニル袋が落ちていたり、道端にたばこの吸い殻が落ちていたりします。ひどい場合は、段ボールやビン、缶まで落ちています。また、最近のニュースで、落ちているごみを動物などが食べてしまい、問題になっていることを知りました。

そして、ポイ捨ては減ることがなく、年々増えています。その原因の1つとして、テイクアウトできる店が増えたため、紙コップなどの容器がポイ捨てされているそうです。

自分が考えた中で、ポイ捨てをする理由として、「ポイ捨てをすることは悪いこと」という認識が甘い人がいるからだと思います。

そこで、ポイ捨てをしないことが当たり前になるように、主に学生や小さいお子さんを持つ家庭を対象に、ポイ捨てが及ぼす影響について詳しく伝える機会を設けるのはどうかと考えました。新しくポスターなどを作成したり、市の職員の方たちが学校に訪問して講演会を開いたりしてはどうでしょう。

ポイ捨てについて考えることは、SDGsの目標の中の11番、「住み続けられるまちづくりを」にも関わってくると思います。

そこで質問します。

今までに、ポイ捨てについてのポスター作成や、講演会を開いたことはありますか。

### **環境部長／鈴木雅博**

ごみのポイ捨てのポスターにつきましては、西尾市では作成していません。しかし、「ポイ捨て禁止」「ごみ捨てを禁ず」の2種類の看板を作成して、設置要望のある町内会に配布して設置してもらっています。

また、講演会という形式のものはありませんが、学校や町内会などの団体から要望があった場合には、ごみの減量や分別の仕方、また、リサイクルの進め方などについての講座を開催しています。

なお、ごみのポイ捨てのポスターにつきましては、今後、学校と協議いたしまして、小学生や中学生の皆さんの協力が得られれば、作成していく方向で検討していきたいと考えています。

学生の皆さんが考えてくれたポスターを町内会や企業などに配布して広く掲示していただくことにより、ごみのポイ捨てが少しでも少なくなれば、市としても取り組む効果があるものと思います。

### **東部中学校 新家侑奈**

ありがとうございました。

私自身も、ポスター作成など、自分にできることは積極的に協力し、ごみのポイ捨てが少しでも少なくなるようにしていきたいです。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

ポイ捨ての現状について、どのように考えていますか。また、これからどのように取り組んでいきますか。

### **環境部長／鈴木雅博**

ごみのポイ捨ては、市内の至る所で見られます。特に、国道など広い道路の交差点付近では、ペットボトルや空き缶、お菓子の容器包装などのごみが散乱しているのが見られます。市としましては、ポイ捨ては一部のマナーを守らない方によるものであると考えています。

そこで、西尾市では「空き缶等ごみ散乱防止条例」という西尾市独自のルールを定めています。このルールは、ごみの散乱防止のため、市民の責任や市の責任を明確に定め、市民の快適な生活を維持することを目的としています。

このルールに基づいて、町内会や企業などと一緒に啓発活動などを行い、ポイ捨ての状況が少しずつでも改善されるように取り組むとともに、ボランティアとして清掃活動をしていただいている市民の方々に支援を行っています。

### **東部中学校 新家侑奈**

ありがとうございました。

少しでも、ごみのポイ捨ての状況が改善されるように、学校や町内会、企業などと協力して、できることを1つずつ行っていけるといいと思いました。そして、西尾市民の快適な生活が確保され、私たちの未来を、より良いものにしていくことができるように、共に考え、行動していきたいと思います。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

### **議長／佐久島しおさい学校 細川希咲**

東部中学校 新家侑奈議員の質問が終わりました。

次に、10番目の質問者、西尾中学校 榊原琉意議員。

### **西尾中学校 榊原琉意**

それでは、通告に従い質問します。

僕のテーマは「市民の健康意識を高めるために」です。

今日では、授業でタブレットを使用したり、スマートフォン1つあれば買い物や仕事ができちゃったりと、とても便利な時代になりました。しかし、その一方で、多くの市民がスマートフォンやタブレットを持ち、さらにSNSが普及したことにより長時間の使用が増え、外出し、運動する機会が少なくなっています。そのため、健康面でさまざまな問題が起こることが予想されます。

僕は、外出し、体を動かすことで、体力の向上が期待でき、健康な市民が増えると思います。そのため、市民が外へ出たくなるような活動を行ってみてはどうかと考えました。例えば、「西尾スタンプラリー」と題し、西尾市の有名な場所をチェックポイントにしてウォークラリーを行います。2019年に行われた「西尾ぐるっと！ロゲイニング」のように、制限時間を指定し、制限時間内により多くのチェックポイントを回ることでできたチームを表彰します。これは、市民の健康意識を高めるだけでなく、西尾市を知ることにもつながります。また、地域のイベントに参加することでポイントがもらえ、そのポイントが市内の複合商業施設で使用できるようになるといいです。

令和4年3月6日には、西尾市で初めてのフルマラソン「にしおマラソン」が開催されると聞きました。そのような市民の健康意識を高めるイベントを企画し、なおかつ参加者には、ポイントを還元するといった市民を巻き込んだ活動をしてはいかがでしょうか。このような活動に、僕たちも実際に参加するだけでなく、運営側にもボランティアとして参加できればと思います。市民の健康意識が向上し、地域のイベントに多くの市民が参加することは、僕たちの幸せにもつながります。きっと、魅力があるイベントを開催すれば、参加者が増え、西尾市民の健康意識が高まると思います。また、市民の健康は、西尾市の活性化にもつながると考えます。

そこで質問します。

現在の市民の健康状況をどのように捉えていますか。

### **交流共創部長／内藤貴久**

西尾市の健康状況を知る上で、参考となるデータを1つご紹介します。65歳以上の人口割合を示す高齢化率が近隣の10市町で比較しますと、西尾市は約25.7%と1番高いのですが、65歳以上で介護が必要と認定された方の割合は6番目となっています。他の市町に比べ高齢者の割合は高いものの、元気で自立した高齢者が多いと言えます。

世界保健機関(WHO)憲章では、前文において健康を次のように定義しています。「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、全てが満たされた状態にあることをいいます。」とされています。

今回は、質問通告書に書かれています、体を動かすことが少なくなったことによる体力の低下や市民の健康意識について、お答えします。

令和2年度に実施した市政世論調査で、スポーツの実施について、週に1日以上スポーツを行うと回答した人が46.7%いました。これは西尾市が目標としている50%以上には届かないという結果であります。

このことは、市民の体力について決して高い状態ではないと推測されます。週に1回以上のスポーツを継続することが、健康を維持する上で重要であると考えます。

### **西尾中学校 榊原琉意**

ありがとうございました。

市民の健康を高めるために、僕も西尾市民の1人として、仲間を誘い、健康を高める地域のイベントに積極的に参加しようと思いました。

続きまして、2つ目の質問に移ります。



西尾市民の健康意識を高め、西尾市を活性化させるために、どのような地域のイベントを企画し、行っていこうと考えていますか。

### **交流共創部長／内藤貴久**

まずは、意見にもありますように令和4年3月6日に西尾市で初めてのフルマラソン「にしおマラソン」を開催します。

これは、スポーツ振興と観光振興を合わせた地域活性化をテーマに、参加者、応援者、ボランティアなど市民が一体となって楽しめる大会を目指しています。市内の中学生の皆さんにボランティアのご協力をお願いしたところ、900人を超える応募がありました。西尾市全体で大会を盛り上げようとする心意気を感じ、とてもうれしく思います。

スポーツには、するスポーツ、見るスポーツ、支えるスポーツがあります。支えるスポーツの1つであるボランティアもイベントを成功させるためには、とても重要な役割を果たしています。参加者は、自分の楽しみのために参加するので充実感を得られる人はたくさんいると思いますが、ボランティアも同じく楽しさや充実感を得られれば、幸せな気持ちになれると思います。このようにイベントに携わる全ての人が、充実感を味わうことができる魅力あるイベントを企画していきたいと思います。

また、スポーツ面だけではなく、「にしお健康ツーリズム」という西尾市の観光を利用し、健康的な身体になるための習慣や態度を変えることを促すツアーを吉良温泉や株式会社スギ薬局と連携して実施します。

こうしたフルマラソンや健康ツーリズムの取り組みが評価の1つと認められ、全国を先導する優良なスポーツ・健康まちづくりに取り組む市町村として、スポーツ庁から「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰2021」として表彰をされ、12月14日には室伏スポーツ庁長官から直々に市長に表彰状が授与されました。

この表彰は、今回が記念すべき第1回目で、愛知県内では西尾市が唯一の受賞となっています。

今回の受賞や取り組みを通して、市民が健康意識を高め、西尾市の活性化にもつながることを期待しています。

### **西尾中学校 榊原琉意**

ありがとうございました。

僕たちの西尾中学校では、「利他共生」をスローガンとして掲げています。利他共生とは、他人の幸せは自分の幸せという意味です。にしおマラソンのボランティアを希望した中学生の人数が900人という数字は決して少ないとは思いませんが、令和3年5月1日の時点での西尾市の中学生の総数は5,060人というデータがあります。「利他共生」という観点からも、さらに多くの中学生が地域のイベントにさまざまな形で参加し、参加した皆さんが地域の方々とともに幸せになれるといいと思いました。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

### **議長／佐久島しおさい学校 細川希咲**

西尾中学校 榊原琉意議員の質問が終わりました。

以上で、本日の日程は全て終了しました。

これを持ちまして、西尾市学生議会を閉会します。

### **総合政策部長／高原 浩**

皆さん、ありがとうございました。また、長時間にわたり大変お疲れ様でした。

それでは、ここで、教育長から講評をいただきます。

### **教育長／稲垣 寿**

10人の中学生議員の皆さん、ただ今、大変立派な堂々たる質問をいただきました。ありがとうございました。この本物の議場で、市長はじめ、西尾市の幹部の方たちに向かって自分の考えを発言することができ、緊張もあったと思いますが充実感も得られたのではないかと思います。皆さんから質問をいただいた私たちも、中学生の皆さんがふるさと西尾のことを思う、そういう熱意に胸を打たれた思いがいたしました。

さて、ここ市議会というところは、西尾市民の皆さんが幸せに暮らしていくためにどうしていったらいいかを話し合う場所です。今日、皆さんは議員になってみて、そういうことを感じたと思います。そのために、「どのようなまちにしていくなか」とか、「どのようなイベントをやっていくのか」などを話し合っていきます。もっと具体的に言うなら、例えば、今日の皆さんの質問の中にもありましたが、津波避難タワーをつくったり、マラソン大会を開催したり、あるいは、少し皆さんの近くの話で言うと、3学期の給食で少し豪華なメニューを出すことが決められたのも、この議会の場でもあります。

それを言い換えると、皆さんのお父さんやお母さんが市に収められた税金をどのようなことに使っていくのかをここで決めていきます。市民の皆さんから集めたお金の使い道を決めていくわけですから、ここでの仕事は西尾市の未来を決めていくような大変重要な仕事で、とても重い責任を背負っている場所なんです。ですから、この議場を見てみると、とても重厚で厳肅な雰囲気につくられているのは、そういった理由からです。そして、市長や今、後ろにもいらっしゃいますが市議会の議員が選挙で選ばれるのも、西尾市の未来を決める重大な仕事を任せられる信頼できる人を市民全員で選ぶためです。

本日、皆さんは各学校の代表として、一生懸命西尾市のことを考えて質問や提案をしてくれました。その思いに応えるために、こちら市側の回答も中学生だからという遠慮や子ども扱いは一切なしで、手加減なしで本物の議会と同様に各部局で真剣に検討し、回答しました。ですから、できないものはできませんと少し厳しい回答もしましたが、その代わりに本日皆さんが受け取った回答は全くの本物です。市の全くの本音です。ですから、皆さんはそれを受け取ったということになります。そして、さらにこの後、市長からも皆さん1人1人の質問についてコメントがもらえるかと思います。

今回の経験をもとに、ふるさと西尾を愛し、これからも自分の身の回りの問題に気付き、それを解決するための方法を考える人になってほしいと思います。そして、未来の西尾市、未来の世界を担っていく人になってください。10人の中学生議員の皆さんの今後の大きな期待と今後の活躍を願って、指導講評といたします。

本日はお疲れ様でした。

## 総合政策部長／高原 浩

最後に、中村市長から、お礼のご挨拶を申し上げます。

## 市長／中村 健

10人の学生議員の皆さん、お疲れ様でした。

まずは、皆さんがこの場に立って自分の意見を堂々と発表してくれたこと、そして前を向いて意見を発表してくれた姿勢や答弁を聞いているときに話している人の方をしっかりと向いて真剣に聞いてくれたことに、すごく感動しました。ありがとうございました。

次に、個別に少しずつコメントをさせていただきます。

まずは、1番目、平坂中学校の平松紗彩議員。

平松議員の年代や僕の年代もそうですが、仕事ですとか家事、子育てを一緒に役割分担をしてやっていくのは当然の感覚だと思うのですが、40年、50年前の日本は、お父さんは外で仕事をしてきて、お母さんは家で家事や子育てをするという社会でした。それが正しい正しくないというよりは、当時はそういったことが当たり前で、今はそれが違う当たり前になってきている中で、少しずつ変化してきてはいるのですが、まだ十分に変化しきれていないのが今の時代なのかなと思います。しかし、やはり男性、女性というのを差別する必要はないと思いますし、そこは力を合わせてやっていくべきだと思いますので、西尾市でも、そのスピードが少しでも速く実現できるように、これからも頑張っていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

2番目、吉良中学校の井土瑛太議員。

今年の4月にスポーツ都市宣言をしました。これまでもスポーツには力を入れてきたつもりですが、やはりこれまで以上に、スポーツというものを大きな要素として力を入れてまちづくりをしていきたいと思います。今年と来年の2カ年で「スポーツまちづくりビジョン2040」というものを作成していく中で、施設の部分でも、よく子どもたちから「ちゃんとした大会ができるような施設がない」ということを聞いていて、それを反省点として受け止めていますので、少し時間はかかるかもしれませんが、しっかりと大会ができるような立派な施設もつくっていききたいと思います。また、それだけではなくて、スポーツ教室などを開催してくれるような団体を増やしていく中で、年齢や性別に関係なく、多くの西尾市の方がスポーツに気軽に親しめるようなまちにしていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

3番目、佐久島しおさい学校の細川希咲議員。

質問自体は、佐久島しおさい学校のことだったので、民主主義とは何だというような、すごく大事なことを言ってくれたと思っています。確かに選挙で選ばれる政治家や市役所の人などは、まちづくりのプロ意識を持って仕事をしていかなければいけないと思いますが、やはり主役は西尾市民の皆さん1人1人だと思っています。確かにいろいろな分野や課題がありますので、全部のことを知ってくださいというのは難しいと思いますが、自分が生活している中で関心のあることだけでも自分事として捉えてもらうことはすごく大事なことで、その中で意見を言ってもらったり行動に移してもらうことが、この西尾市を良くしていく1番大事なことだと思います。細川議員もちろんですが、周りの家族や友達にも、そういった影響を広げていってほしいと思います。

4 番目、鶴城中学校の本多太一議員。

憩いの場ということでは言わせていただきますと、必ずしも公園だけではないのですが、そういった場をつくっていくことは大事だと思っています。今、この場で少し紹介させていただくと、名鉄西尾駅の自動改札機のすぐ近くに全然使われていないスペースがあるのですが、それを来年3月に「おいでつき」という名称で、特に若い人たちが、例えば、楽器を演奏するとか、イベントを開催するとか、そういったことで使ってもらえるような形で新しい憩いの場とか、居場所をつくっていきたいと思っています。さらには、ヴェルサウォークの向いに公園がありますが、そこも今よりも少し使い勝手を良くするようにして、特に子どもたちやお子さん連れの家族などが「おいでつき」とその公園等を一体的に利用して楽しんでもらい、憩いの場となるような計画をしていますので、少し時間がかかるかもしれませんが、楽しみにしてほしいと思います。

5 番目、一色中学校の佐々木聖流議員。

一色の方々と話をしていると、防災に対する意識というものがすごく強いと感じます。やはり、すぐ近くに海があって地震などが起こると津波が来るかもしれないという危険があるからだと思います。したがって、西尾市としても防災という分野はすごく重点的に取り組む分野として考え、将来的には10基ですが津波避難タワーもなるべく早く建設しますし、それ以外にも食料の備蓄などもやっていきます。また、一色の皆さんも助けてもらうとか守ってもらうという意識ですと、本当に大きな災害が起きたときに被害がなかなか抑えられないので、市役所も頑張りますが、自分の身は自分で守るという意識で、日頃から備えていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

6 番目、幡豆中学校の山本希美議員。

名鉄西尾・蒲郡線は、答弁の中にもありましたが、西尾市としては絶対に残していかないといけない路線だと思っています。1つお願いしたいのは、今は運転免許証を持っていないので、割合と電車に乗る機会があったりすると思いますが、実際に免許証を取ると車の方が便利なので、電車は面倒くさいとどうしても思ってしまうと思います。しかし、免許証を取った人が電車に乗らなくなってしまうと、やはり電車の利用者は増えないので、車の免許証を取った後でも、毎日とは言わないですが、時々「今日は電車で行ってみようかな」とか「電車を使ってみようかな」という人が増えていくことが、電車の利用者を増やすことにつながりますし、それがにしがま線を残すことにもつながるので、今の気持ちを大人になっても持ち続けて、時々電車を利用しようという習慣を付けてほしいと思います。

7 番目、寺津中学校の宮地瑛大議員。

西尾市の未来についてということで、少し前に保育園などに子どもを預けているお母さんたちと話をさせていただきました。いろいろ西尾市に希望することですとか、要望することがあったのですが、その中で特に多かったのが、子どもたちが遊ぶ場所、特に屋内で雨が降ったときでも遊べる場所が西尾市にはなかなかないので、そういった施設をつくってほしいという声をたくさんいただきました。今はその施設をつくるための場所選びとか、どういった内容にしようかと考えているところです。宮地議員がお父さんになって子ども連れて行くときまでにはきっと完成していると思いますので、ぜひとも利用してほしいと思います。

8番目、福地中学校の小松勇夏議員。

歴史の保全の意義というところで、経済的なことだけではなくて、人との交流とか、そこまで気付いてくれたことはすごいなと思いますし、うれしく思います。西尾市として、これから施設を有料化していくのかどうかについても、もう少ししっかり考えていく必要があると思いますが、今は有料化してしまうと、入口が狭くなってしまって、来てくれる人自体が減ってしまうという心配がありますので、無料にすることで入口は大きく開いて、まずは多くの人に知ってもらうことが大事です。その中で、「これすごくいいからぜひとも残してほしい」と思う人が、例えば寄附をしてくれるとか、建物を直すときにはボランティアで来てもらうとか、そういった形で力を貸してもらうことが、今はいいのではないかと思っていますので、これからも文化財や歴史を大切にすることは持ち続けてほしいと思います。

9番目、東部中学校の新家侑奈議員。

ポイ捨てというのは、やはりごみが落ちてると汚いと思ってしまいますよね。きれいなまちにしようと思うと、ポイ捨てをやめてほしいと思うのは当然のことなのですが、もう1つ、そこから考えてほしいことは、そもそもごみを出してしまうということは、地球を壊すことにつながるのだから、ごみを出さないようにするためにはどうすればいいのかということまで考えて行動してくれると、非常にうれしいと思います。そのために何かすごく難しいことをやってほしいということではなくて、例えば、買い物に行ったときにマイバックを持っていくとか、レストランに何か食べに行ったときには食べ残さずに全部食えるとか、そういったことを1つ1つ積み重ねていくことがごみを減らすことにつながります。ごみのポイ捨てを減らすために市役所としても頑張っていきますが、そもそもごみを出さないような生活をしていくためにということで、また協力してほしいと思います。

最後に、西尾中学校の榊原琉意議員。

市民の健康意識ということですが、質問の前の意見を聞いていますと、健康意識だけではなくて、それを上手く地域の活性化など、そういったことにまでつなげていくような提案をしてくれたのかなと思います。3月6日に開催される西尾マラソンは、そういった意味では市民の健康意識を高めていただく機会にもなりますし、それが西尾市のPRや活性化にもつながっていく本当に大きなチャンスだと思っています。愛知県内で市町村が主催する男性も女性も参加できるフルマラソン大会は、この西尾マラソンだけなんです。そうしますと、非常に注目されると思いますので、まずは、何としても第1回を成功させたいと思っています。そこで、フルマラソン大会は本当に多くの人の協力がないと成功できないので、ぜひともボランティアで協力してほしいと思いますし、今年の1回だけで終わりではなくて、来年以降も続けていく予定ですので、この西尾マラソンというものを西尾市民全員で「西尾といえば、マラソンがあるね」と言ってもらえるような、そういうイベントにしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

以上10件、それぞれの議員から本当に真剣に質問・意見をいただきました。僕が最後に言いたいことは、今回は議会の場で、皆さんが積極的に手を挙げてチャレンジしてくれたと思います。この西尾市を良くしていくためには、先ほども少し言いましたが、やはり自分ができることを行動に移す人が1人でも増えることだと思います。これからも皆さんの中で、確かに仕事をしてお金を稼がないとできないことなどもあるかもしれませんが、

何かイベントがあったらボランティアで協力するとか、自分が通学しているときにごみが落ちていたら拾うとか、何でもいいので、そういったことをやっていくということも多くの人実践することで、この西尾市は絶対に良くなります。それが、僕の言う「チーム西尾市」ということで、1人1人が西尾市のことを思っていることを実践していく、そういったまちにしていきたいと思いますので、これからも皆さんにも協力をお願いしたいと思います。

皆さんが、これから先、西尾市民として活躍することをすごく期待していますので、頑張ってもらいたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

**総合政策部長／高原 浩**

以上をもちまして、令和3年度西尾市学生議会を終了いたします。

どうもありがとうございました。

閉会